



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

11月号—No.366
2025.10.25
(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【枇杷茶(びわちゃ)】熟した枇杷の実のようなくすんだ黄褐色。

枇杷はバラ科の常緑高木。原産地は中国南西部。古代に伝来し、江戸時代に唐枇杷が長崎に持ち込まれたことにより食用として本格的に栽培されるようになった。仏教の経典で「大薬王樹」と紹介されるほど薬効に優れ、お茶や入浴剤などとして広く普及した。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

「公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業」スタート

財団からのお知らせ..... 4

ステージラボ高知セッション参加者募集 / 「公共ホール現代ダンス活性化事業」2027・2028年度登録アーティスト募集 / 令和7年度「公共ホール邦楽活性化事業」スタート

今月の情報..... 6

地域通信

調査研究事業報告..... 10

2024年度「地域の公立文化施設実態調査」② 専用ホール

今月のレポート..... 12

千葉市 千葉国際芸術祭2025

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4093 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

●公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業

おんかつ支援事業を拡充し 主体的な市町村連携の支援をスタート

令和7年度 公共ホール 音楽活性化支援・ 市町村連携事業

左上: 西和賀町立沢内中学校でのアウトリーチ

右上: 北上市立飯豊小学校特別支援級でのアウトリーチ

左下: おんがくたいけんプログラムforきつず(釜石市民ホールTETTO)

右下: セレブレーション・コンサート(前沢ふれあいセンター)



●令和7年度「公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業」

[主催] 一般財団法人奥州市文化振興財団、一般財団法人北上市文化創造、特定非営利活動法人一関文化会議所、釜石まちづくり株式会社、西和賀町教育委員会

[共催] 一般財団法人地域創造

◎アーティスト

- 野尻小矢佳(パーカッション)
- 新崎誠実(ピアノ)
- 加藤直明(トロンボーン)
- いわ音登録アーティスト: 菊池葉子(メゾソプラノ)、阿部美礼(ピアノ)、牧野詩織(フルート)

※MPIのアウトリーチやワークショップに関わり、市町村連携事業で実施したセレブレーション・コンサートに出演。

●公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業に関する問い合わせ

芸術環境部 和田・税光
Tel. 03-5573-4185
onkatsu@jafra.or.jp

*1 詳しくは実施要綱・要領参照。
<https://www.jafra.or.jp/project/music/06.html>

*2 地域創造レター2023年12月号「今月のレポート」参照。

地域創造では、公立ホール職員の企画・制作力の向上とクラシック音楽を通じた創造的な地域づくりを目的に、1998(平成10)年から若手演奏家を派遣し、市町村の公立ホールと共同でコンサートとアウトリーチ等を実施する「公共ホール音楽活性化事業(おんかつ)」に取り組んできました。2005(平成17)年にはおんかつに参加した団体が事業を継続できるよう財政的に支援する「公共ホール音楽活性化支援事業(おんかつ支援)」(当初は2カ年、2020年から5カ年)がスタートするなど、地域のニーズを踏まえて支援の拡充を図ってきました。

そして今年度から新規事業として立ち上がったのが、コロナ禍や大規模災害の経験などにより、近隣市町村ホール同士の連携意欲が高まっていることを踏まえた「公共ホール音楽活性化支援・市町村連携事業」です。おんかつ、おんかつ支援によって経験を積んだ市町村ホールも増え、事業を行いながらその知見を近隣地域で共有するとともに、ホール間の連携について学ぶ機会となることが目的のひとつになっています(連携団体が変わっても同一地域として3カ年申請が可能)。

その初めての取り組みが、昨年の準備期間を経て、岩手県県南・沿岸の5市町で4月30日～10月3日に実施されました。今回連携したのは、おんかつをきっかけに長年アウトリーチに取り組んできた北上市文化交流センターさくらホールfeat.ツガワ(一般財団法人北上文化創造)、前沢ふれあいセンター(一般財団法人奥州市文化振興財団)、おんかつや邦楽活性化事業の経験がある釜石市民ホールTETTO(釜石まちづくり株式会社)、連携事業に初めて参加する一関文化センター(NPO法人一関文化会議所)と西和賀町文化創造館銀河ホール(西和賀町教育委員会)、特に西和賀町はクラシック音楽のアウトリーチに初めて取り組むという、規模も運営者の性格も異なる5団体です。

●公立ホールの知見を共有する

市町村連携事業では、経験団体の知見を共有することを目指し、①原則として10年以内に公共ホール音楽活性化事業または公共ホール邦楽活性化事業を実施、または地域創造との共催事業を実施した経験のある団体が幹事団体となること、②地域創造おんかつ支援登録

▼— 今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

アーティストを活用すること、そして実施面では、③幹事団体が中心となって事前の全体研修会と事後の報告会を実施すること、④各団体が主体となってアウトリーチなどの地域交流プログラムを実施すること、⑤何らかの形で市町村連携事業に関わった演奏家全員が参加する有料コンサートを少なくとも1回実施すること(各団体の単独開催、幹事団体と参加団体の共同開催など実施方法は問わない)を要件としています。内容については演奏家の選考を含め、各団体が個別に契約し、独自に企画できることが特徴となっています。また、幹事団体は必要に応じて、講師やアドバイザーの派遣を求めることもできます^(※1)。

今年度の連携が行われた岩手県南・沿岸部は、おんかつ経験館が連携する「おんかつ市町村モデル事業」(現在は終了)を2011年に実施したのを契機に、県内の音楽家(いわ音登録アーティスト)の育成や、岩手で震災復興支援活動を行ってきた演奏家(地域創造おんかつ支援アーティストでもある野尻小矢佳さん(パーカッション)、新崎誠実さん(ピアノ)、加藤直明さん(トロンボーン))と共にアウトリーチ、コンサート、クリニックなど音楽の輪を広げる「Music Program IWATE 星巡りプロジェクト(MPI)」^(※2)を2022年度にスタートするなど、公立ホールが意欲的に交流してきた地域です。今回の市町村連携事業は、そのMPIに参加する形で実施されました(県内8館1団体が実施。内5館が市町村連携事業)。

●個別ニーズに対応した取り組み

幹事団体として名乗りを上げたのは、MPIの立ち上げ時から参加してきた前沢ふれあいセンターです。市町村連携事業の枠で共同開催した開館35周年記念の「セレブレーション・コンサート(9月20日)を掉尾に、アウトリーチや、幹事団体としての全体研修会(4月30日・5月1日)と報告会(10月3日)に取り組みました。

MPI参加団体も含めた全体研修会は、MPIのプロデューサーでもある野尻さんが講師となり、アウトリーチに初めて取り組むホールもあ

ることから実際に学校に出向いて下見の注意事項などを確認するなど実践的な内容になりました。人事異動で4月から担当となったふれあいセンターの佐藤裕介さんは、「アウトリーチを実施した経験もなく、自分にとっても全体研修会はとても勉強になりました」と振り返っていました。

圧巻は野尻さんのプロデュースによる不思議な編成のセレブレーション・コンサートです。おんかつ支援アーティストに加え、幹事団体の希望によりMPIで出演したいわ音登録アーティストも出演しました。子どもたちに届けてきたアウトリーチを解説付きでホールの観客とシェアした第1部に続き、第2部ではミラーボールの光でつくり出したプラネタリウムのような空間の中、今回のガラコンサートのための新曲『MPI星巡り：野尻小矢佳作曲』(連携事業に携わった演奏家、ホールメンバーがひとり1音ずつ選び、計17音で紡いだ星のまたたきのような現代曲)などが披露され、星巡りの物語が聴こえてくるような時間が流れていました。また、演奏会当日には参加団体が駆けつけてサポート。「幹事団体としてどう動けばいいのか迷いながら取り組みましたが、もっと相談しながら進めても良かったのだと改めて思いました」と佐藤さん。

今回の市町村連携事業で初めてアウトリーチに取り組んだ西和賀町教育委員会の高橋竜也さんは、「西和賀には小規模な小学校と中学校が2校ずつあります。全校生徒に聞かせたいという先生たちの要望を踏まえて体育館で実施しましたが、『あの子があんな顔をするのを初めて見た』と校長先生が子どもたちの顔を楽しそうに見ていたのがとても印象的でした。連携事業に参加して人との接点ができ、交流が膨らんだのが財産だと思っています。次回は演奏会の裏側を若い職員に研修として経験してもらおうなど、もっと関わっていければと思っています」と話していました。

●西和賀町文化創造館銀河ホール
町内に小学校2校、中学校2校しかなく、小規模校であることから学校の要望を踏まえて全校児童・生徒を対象に体育館でアウトリーチを実施。

●9月10日：西和賀町立湯田小学校・町立湯田中学校(全校児童・生徒)／11日：町立沢内小学校・町立沢内中学校(全校児童・生徒)

●北上市文化交流センターさくらホール feat.ツガワ

「子どもたちと、演奏家と音楽と楽器との幸せな出会い」をテーマに特別支援学級と学童保育でアウトリーチを実施。特別支援学級は事前の聞き取りにより、子どもたちの特性を踏まえてアクティブなグループとおだやかなブルーの2班に分けて実施。

●9月12日：北上市立飯豊小学校(特別支援級4・5年生&特別支援級1・2・3・6年生)、江釣子学童保育所@江釣子地区交流センター／13日：和賀東学童保育所(親子向け)

※他にMPIプログラムあり

●一関文化センター

一関文化センターの認知度向上を目指して初めて小学生を対象に音楽室でアウトリーチを実施。

●9月16日：黄海小学校(1～3年生、4～6年生)／17日：藤沢小学校(1・2年生、5・6年生)

●前沢ふれあいセンター

2013年から毎年アウトリーチを行っている前沢小学校の4年生を対象に、「クラシック・楽器の魅力を知ろう!」と題して1クラスずつ音楽室で実施。当初、役場職員向けのインリーチを予定していたが議会対応のため、急遽対象をホールの定期利用団体に変更。

●9月18日奥州市立前沢小学校(4年1・2・3組@音楽室)／19日：前沢ふれあいセンター定期利用団体@前沢ふれあいセンター

※他にMPIプログラムあり

●釜石市民ホールTETTO

中心市街地活性化という目的を共有するイオンタウンとの協体制構築のため、店内でミニコンサートを実施したほか、こども園等でアウトリーチを実施。

●9月23日：TETTOおでかけミニコンサートinイオンタウン釜石・おんがくたいけんプログラムforきっず@釜石市民ホール／10月1日：ピッコロ子ども倶楽部桜木園・かまいしこども園／2日：鶴住居保育園・釜石市立栗林小学校(全校児童)

※他にMPIプログラムあり

財団からのお知らせ

●ステージラボ高知セッション参加申し込み方法

当財団ホームページより募集要領をご確認のうえ、必要事項を揃えて専用フォームよりお申し込みください。

<https://www.jafra.or.jp/project/training/01.html#boshu>



●ステージラボに関する問い合わせ

芸術環境部 児島・嶋崎
Tel. 03-5573-4183

◎高知市文化プラザかるぼーと

高知市の中心市街地再開発計画に合わせて市の文化拠点として2002年4月に開館した複合文化施設です。地下3階から地上11階までに、大小ホール、スタジオ、ギャラリー、中央公民館、横山隆一記念まんが館、駐車場があります。愛称である「かるぼーと」は、文化と港を意味する英語、カルチャーとボートを組み合わせた造語で公募により決定しました。建物の中心をくり抜き、文化の風を受け進む帆船をイメージした特徴的な外観は、高知を訪れる人の目を引いています。

1,085席の四国銀行ホール(大ホール)、200席の龍馬学園イベントホール(小ホール)、1,500㎡の総展示面積を誇るBILBOギャラリー(市民ギャラリー)などは、さまざまな文化イベントだけでなく、学会や展示会など一年を通して多くの人が集まる拠点となっています。また、まんが「フクちゃん」で知られ、まんが家で初の文化功労者となった横山隆一を顕彰する目的で、3階から5階部分に「横山隆一記念まんが館」を併設。まんが文化の継承・発展に貢献しています。

一部施設の改修を行い、2023年にリニューアルオープンした当施設は、これからも高知市の文化活動を支えながら、走り続けます。

指定管理者：高知市文化プラザ共同企業体

●ステージラボ高知セッション参加者募集

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップ等の体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組み、少人数ゼミ形式の実践的な研修事業です。

令和7年度の後期セッションは、高知市文化プラザかるぼーと(高知県高知市)にて3コースを開催します。各コースの詳細は募集要領をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

募集締切：2025年11月25日(火) 必着

◎ステージラボ高知セッション概要

[日程] 2026年2月24日(火)～27日(金) ※公立ホール・劇場マネージャーコースのみ24日(火)～26日(木)

[会場] 高知市文化プラザかるぼーと
(高知県高知市九反田2-1)

[開講コース] ホール入門コース、自主事業コース、公立ホール・劇場マネージャーコース

[定員] 各コース20名程度

[主催] (一財) 地域創造

[共催] (公財) 高知市文化振興事業団、高知市文化プラザ共同企業体、高知市

[後援] 高知県

◎ホール入門コース

【コーディネーター】

有門正太郎(演出家・俳優・劇作家、有門正太郎プレゼンツ主宰)

【対象となる職員の目安】

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公立ホール・劇場において業務経験年数1年半未満の方。

【コース概要】

職場から一歩離れて他のホールを覗いてみると、中にいると見えない景色や考えが湧いてきます。今回の会場となる高知市文化プラザかるぼーとで参加者の関心ごとを持ち寄り、時には周辺を歩き、時には食事し、時にはアーティストのプログラムを体験しながら、地域の課題やホールの課題、公共ホールの役割などを対話や会話を通して探求します。ホール職員になる理由や覚悟は様々違います。あなた

のための入門コースになるでしょう。

◎自主事業コース

【コーディネーター】

荒井洋文(犀の角代表・プロデューサー・舞台芸術制作者)

【対象となる職員の目安】

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、自主企画による事業を実施している公立ホール・劇場において業務経験年数が2～3年程度の方。

【コース概要】

近年、文化芸術は福祉、医療、産業、観光、まちづくりなど他分野との結び役になるだけでなく、各領域での課題を文化芸術と一体となって解決していく道筋をつけることができると言われていています。課題の山積する現代社会において、公共劇場が施設等に集客することや、文化芸術を振興することのみにとらわれず、広く地域に展開し、多様な領域と互いに協働しながら取り組んでいくような事業の可能性やその道筋を探ります。

◎公立ホール・劇場マネージャーコース

【コーディネーター】

山本麻友美(京都芸術センター副館長・チーフプログラムディレクター)

【対象となる職員の目安】

公立文化施設で企画・運営に携わる職員および地域の文化・芸術に携わる地方公共団体職員で、公立ホール・劇場において管理職程度の職責をもつ方。

【コース概要】

公共ホール・劇場の管理職は、クリエイティブな現場に関わりながらも、人材確保から地域や行政の要望への対応など、多くの責務と期待を担う要職です。職場内でも、劇場の外でも、立場や世代をつなぐ橋渡しの役割を果たしています。孤独や重責を抱えつつも「地域に役立ちたい」「創造的でありたい」と願う方々と共に、視点を変え、心を軽くし、仲間と経験を共有する3日間。新たな発想と勇気を持ち帰り、現場に戻る力を養う機会にしたいと思います。

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●「公共ホール現代ダンス活性化事業」 2027・2028年度登録アーティスト募集

この事業は、地域創造に登録されたコンテンポラリーダンスのアーティストを地域のホールに派遣し、地域交流プログラム(アウトリーチ、公募ワークショップ)や公演(市民参加作品、レパートリー作品)を実施するものです。アーティストは、ホールが主体となって企画する事業に対し、柔軟な発想によりコンテンポラリーダンスの魅力を最大限に引き出し、ホールと協働して地域やホールの特性を活かした事業をつくり上げます。

2027・2028年度の事業実施に向けて、事業の趣旨にご賛同いただけるアーティストの方々からのご応募をお待ちしております。また、公立文化施設等の皆様には、地域で活躍する

アーティストをご紹介いただければ幸いです。

◎2027・2028年度登録アーティスト募集概要

[応募条件]

- ①コンテンポラリーダンスのアーティストとして活動し、自身が振付し出演する作品を発表した経験がある
- ②ソロまたはデュオで活動ができる
- ③幅広い層を対象としたアウトリーチや公募ワークショップを行った実績がある
- ④有料公演可能なレパートリー作品を持っている(小作品を複数でも可)
- ⑤公共ホール現代ダンス活性化事業のA・B・Cプログラム全てに対応できる
- ⑥アーティストプレゼンテーションをはじめとする当事業のスケジュールに対応できる

[募集要項]募集要項および応募方法は下記の当財団ホームページをご確認ください。

<https://www.jafra.or.jp/docs/13841.html>

[応募締切] 2025年12月15日(月) 23:59必着

●令和7年度「公共ホール邦楽活性化事業」がスタート

邦楽にふれる機会の少ない方や地域の方々にとって新たな発見や交流の場になることを目指し、工夫を凝らしたホールプログラムと地域交流プログラムを実施する「公共ホール邦楽活性化事業」。令和7年度は、全国6地域で事業を展開します。今号ではその中から石川県かほく市の模様をご紹介します。

かほく市は、石川県のほぼ中央に位置する、人口約3万6千人の海と緑に囲まれたまちです。今回は、箏・十七絃の安嶋三保子さん、尺八の笠原道樹さんと共に、0歳から大人までを対象とした3カ所・全4回のアクティビティを実施しました(子育て支援施設/小学校/図書館)。

七塚子育て支援センターでは親子対象のアクティビティを行い、子どもの遊びを描写した曲《汽車ごっこ》を演奏すると、お母さん方から歓声があがりました。乳幼児は、箏や尺八のリズムに合わせて体を揺らしながら聴き、和やかな雰囲気となりました。また、支援センターと同じ建物内にある中央図書館では、図書館友の会と図書館の利用者に向けて《千鳥の曲》などを演奏し、市の鳥「シロチドリ」や、歌詞となっている古今和歌集の和歌などに思いを馳せました。片づけの際には、参加された皆さんが椅子の移動など進んでお手伝いくださる様子が印象的でした。

最終日のコンサート「やさしいおと～和楽器が紡ぐ物語～」では、《ゆるる秋》《十七絃独奏による主題と変容「風」》《上弦の曲》《吉越》などを演奏

し、箏や十七絃、歌、そして箏・尺八二重奏の魅力に迫るプログラムを披露。アンコールの《少年時代》では客席から口ずさむ声も聞こえ、会場全体がほっと温かい空気に包まれました。アクティビティに参加された方も多く来場され、七塚小学校の児童からは「箏や尺八の曲を弾けるようになりたい」といった感想も寄せられました。

今年度の邦楽事業はまだまだ続きますので、ぜひご注目ください。



上:七塚子育て支援センターでのアウトリーチ/下:箏と尺八コンサート「やさしいおと～和楽器が紡ぐ物語～」

●「公共ホール現代ダンス活性化事業」
アーティスト募集に関する問い合わせ
芸術環境部 永田・波多野
Tel. 03-5573-4077・4075
dankatsu@jafra.or.jp

●令和7年度「公共ホール邦楽活性化事業」
実施団体
(主会場/派遣アーティスト/日程)
●石川県かほく市(石川県西田幾多郎記念
哲学館/安嶋三保子/9月18日～20日)
●滋賀県東近江市(てんびんの里文化学習
センター/森梓紗/11月27日～29日)
●島根県安来市(安来市総合文化ホール/
森梓紗/2026年1月15日～17日)
●佐賀県佐賀市(佐賀市東与賀文化ホ
ール/安嶋三保子/1月15日～17日)
●長崎県大村市(大村市中央公民館/安
嶋三保子/1月22日～24日)
●宮崎県門川町(門川町総合文化会館/大
萩康喜/3月12日～14日)

●公共ホール邦楽活性化事業に関する
問い合わせ
芸術環境部 渡邊・北川
Tel. 03-5573-4143
hougaku@jafra.or.jp

地域通信

●地域通信欄掲載情報について
最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4093
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当 伊藤・中嶋

●2026年1月号情報締切
11月17日(月)

●2026年1月号掲載対象情報
2026年1月～4月に開催もしくは募集されるもの

北海道・東北

●青森県八戸市

八戸市美術館
〒031-0031 八戸市大字番町10-4
Tel. 0178-45-8338 田村由衣
<https://hachinohe-art-museum.jp/>

コレクションラボ011

きつと、そこには

八戸市美術館のコレクションがもつ魅力や可能性を探る展示をする「コレクションラボ」。今回は「きつと、そこには」をキーワードに、作品に描かれているものや、描かれていないものを探り、想像しながら鑑賞を楽しめるように工夫されている。展示室には、観る人への問いかけやワークシートが用意され、鑑賞に対する新たな価値観が創造される。
[日程] 9月13日～12月8日
[会場] 八戸市美術館

●仙台市

仙台市市民文化事業団
〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5
(仙台市青年文化センター内)
Tel. 022-301-7405 佐直友美
<https://www.sendaiycc.jp/p-fes>

第5回日立システムズホール仙台パフォーマンスフェスティバル

コロナ禍の苦境を実演芸術家や舞台スタッフと乗り越えたいとの思いで始まった“おまつり”。5回目の今回は、仙台市を拠点に活動している和太鼓Atoa.や、ピアニトリオ(神谷未穂、エマニュエル・ジラルール、中川賢一)とフラメンコダンサーのSayaによるコンサートを開催。こけしキーホルダーづくりなどワークショップ



前回のエントランスステージの様子

も数多く行われる。

[日程] 11月24日
[会場] 日立システムズホール仙台全館

●秋田県横手市

横手市増田まんが美術財団
〒019-0701 横手市増田町増田字新町285
Tel. 0182-45-5569 大日向玲奈
<https://manga-museum.com/>

WE LOVE MANGA ～全原画 収蔵作家12人でたどるマンガ の軌跡と進化～

横手市増田まんが美術館に全原画を収蔵する12人の漫画家を中心に、貸本時代から現代に至るマンガの歩みを「原画」を通じて紹介する企画展。開館30周年を迎えたまんが美術館の歩みや原画保存の取り組みについても紹介するほか、企画展と増田の町並みを巡るスタンプラリーや、マンガカフェで30周年を記念したスペシャルメニューの提供も行われる。
[日程] 9月6日～12月28日
[会場] 横手市増田まんが美術館

関東

●茨城県笠間市

茨城県陶芸美術館
〒309-1611 笠間市笠間2345
(笠間芸術の森公園内)
Tel. 0296-70-0011 岩井基生
<https://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

THE HEADLINERS 2025

爆誕!セラミック・スーパーノヴァ
茨城県陶芸美術館ならではの多角的な視点で日本各地を調査し、陶芸の今を映し出すシリーズ企画「THE HEADLINERS」の第2弾。音楽フェスなどで“主役”を意味する「ヘッドライナー」。今年は新たに個性の光る16名の作家を紹介。それぞれの感性で陶芸に挑戦する新しい表現が響き合う、輝く“超新星”たちの魅力に迫る。

[日程] 7月12日～11月30日
[会場] 茨城県陶芸美術館

●千葉県習志野市

習志野市文化スポーツ振興財団
〒275-0021 習志野市袖ヶ浦5-1-1
Tel. 047-409-5680 深野有里
<http://narabunh.jp/>

休日の音楽鑑賞教室 in 袖ヶ浦体育館

現在、市文化ホールが地域の再開発事業に伴う長期休館中のため、市民の文化体験を途切れさせないために財団が地域に出て行う演奏会。地域に住む人にとって身近な体育館でプロオーケストラ(千葉交響楽団)の生演奏を届ける。0歳から入場可能で、指揮者や楽器演奏の体験プログラムも用意。昨年好評に於いての開催となる。
[日程] 11月8日
[会場] 習志野市袖ヶ浦体育館

●東京都町田市

町田市文化・国際交流財団
〒195-0053 町田市能ヶ谷1-2-1
Tel. 042-737-0252 上野恵
<https://www.m-shimin-hall.jp/tsurukawa/>

ポプリJAZZライブ ～ニューオリンズJAZZの魅力「デキシーFES」～

日本を代表するデキシーランドジャズバンド・蘭田憲一とデキシーキングスと古典からモダンまで幅広いレパートリーをもつザ・デキシーレイルローダーズがジャズの魅力を発信。事前にジャズ講座も行われ、ジャズの歴史を知る機会も提供。文化芸術活動機会の拡大を目的とする「まちだアーティストバンク活用事業」の一環として開催される。
[日程] 11月29日
[会場] 和光大学ポプリホール鶴川

●横浜市

神奈川県立青少年センター

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

〒220-0044 横浜市西区紅葉ケ丘9-1

Tel. 045-263-4475 藤岡審也
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ch3/index.html>

かながわ伝統文化こども歳時記

歌舞伎や人形浄瑠璃、盆踊りなどの伝統芸能を一度に堪能できる参加型の芸能祭。ステージ公演のほか、郷土の行事や玩具の体験会、箏曲・講談・手妻のワークショップを実施。事前に民謡や盆踊りのレクチャーを受けた後で、司会アシスタントや場内アナウンスなどに携われる「こどもスタッフ」も募集(要申し込み)。

[日程] 11月29日

[会場] 神奈川県立青少年センター

北陸・中部

●富山県富山市

富山市民文化事業団
〒930-0858 富山市牛島町9-28 (オーバード・ホール内)
Tel. 076-445-5610 山本倫子
<https://www.aubade.or.jp/>

Dancing Beethoven

「踊れ! 第九」

今年11月から長期休館する大ホールのクロージング公演として、「第九」を60年にわたって歌い継いできた富山市民と、「第九」全楽章のダンス化に取り組む振付家・ダンサーの森下真樹がタッグを組む。音楽監督・指揮に辻博之を迎え、今回のために編成された舞踊団、管弦楽団、声楽アンサンブルの総勢140人が共鳴し、踊り、奏で、歌い繋ぐ富山版「踊れ! 第九」を創作し、上演する。

[日程] 11月15日、16日

[会場] オーバード・ホール

●福井県福井市

福井県文化振興事業団
〒918-8152 福井市今市町40-1-1
Tel. 0776-38-8280 西野涼香
<https://www.hhf.jp/>

バリアフリーコンサート2025 ～冬、そしてクリスマス～

障がいのある人や小さな子ども連れの家族も安心して楽しめるコンサート。演奏中も会場内は明るく、出入りも自由で声が出てもOK。ケアルームや字幕などのサポートも充実している。福井県在住のアーティスト4名がクリスマスメドレーを含む8曲を演奏予定。終演後にはヴァイオリン・ハーブ・マリンパの楽器体験も実施する。

[日程] 11月30日

[会場] ハーモニーホールふくい

●山梨県富士吉田市

山梨県富士吉田市
〒403-8601 富士吉田市下吉田6-1-1
Tel. 0555-22-1111 勝俣美香
<https://fujitextileweek.com/>

FUJI TEXTILE WEEK 2025

1000年以上続く織物の産地でもある富士吉田市の産業の歴史を根底に、伝統産業および地域活性化を目的とした国内唯一の布の芸術祭を開催。アートやデザインを通じてテキストスタイルの新たな可能性を模索し発見する。また、使われなくなった織物関連の工場や倉庫、店舗などを展示会場として再利用し、産業の記憶の保存と街のアイデンティティ形成に取り組む。

[日程] 11月22日～12月14日

[会場] 下吉田本町通り周辺地域

●長野県松本市

松本市芸術文化振興財団
〒390-0815 松本市深志3-10-1
Tel. 0263-33-3800 島村楓
<https://www.mpac.jp/>

まつもと市民芸術館プロデュース

『チェーホフを待ちながら』

チェーホフ初期的一幕劇『熊』『煙草の害について』『結婚申込』『余儀なく悲劇役者』の4作を、劇団MONO主宰の土田英生が大胆

に潤色。チェーホフ珠玉のヴォードビル作品群に、新たな息吹を吹き込む。一筋縄ではいかない不条理とナンセンスの名手たちが松本の地に集い挑む、“ちょっと風変わりなチェーホフ”。

[日程] 11月6日～9日

[会場] まつもと市民芸術館

●岐阜県岐阜市ほか

岐阜県教育文化財団
〒502-0841 岐阜市学園町3-42
Tel. 058-233-8164 河合篤賢
<https://seiryu-plaza.jp>

オペラ『セロ弾きのゴーシュ』

ぎふ県民文化祭事業のひとつとして、宮澤賢治の名作を題材にしたオペラを上演。北住淳(ピアノ)や森寿美(バリトン)、県内外で活躍するTAJIMI CHOIR JAPANなど、子どもから大人まで市民が出演し、成長するゴーシュの物語を加藤直の演出でお

届けする。11月3日にはセラミックパークMINO(多治見市)でも開催。

[日程] 11月9日

[会場] ぎふ清流文化プラザ

●静岡市

静岡県文化財団
〒422-8019 静岡市駿河区東静岡2-3-1
Tel. 054-203-5714 渡邊麻恵
<https://www.granship.or.jp/>

グランシップ伝統芸能シリーズ 人形浄瑠璃 文楽

日本の伝統芸能を紹介し、親しむ機会を創出する企画。今回は「人形浄瑠璃 文楽」を上演。昼の部では名作『義経千本桜』、夕の部は悲恋物語『曾根崎心中』が上演され、太夫・三味線・人形遣いが一体となった舞台芸術の妙を堪能できる。夕の部では人形遣いのミニレクチャーも行わ

Topics

ろう者と聴者が遭遇する舞台作品 「黙るな 動け 呼吸しろ」

2025年秋、言葉や文化が異なるろう者と聴者の遭遇から新しい作品が誕生します。9月に開催された東京2025世界陸上、そして、11月に開催される東京2025デフリンピックの文化プログラムとして2023年から準備を進め、ろう者と聴者が協働しながら創作を続けてきた本作。「黙るな 動け 呼吸しろ」は、ろう者にとってのオンガクと身体、聴者にとっての音と体の関係の探究を軸に、両者が創作の場で遭遇する、日本手話と日本語によるオリジナルストーリーの舞台作品です。

総合監修は東京藝術大学学長の日比野克彦、ろう者の演出は、高い評価を受けている映像分野にとどまらずジャンルの垣根を超えたさまざまな活動で評価と注目を集める牧原依里、聴者の演出はダンサー・振付家として輝かしい実績をもちながら、近年は俳優や振付家・演出家としても広く活動する島地保武が務めます。ろう者・聴者ともに多彩な俳優・ダンサーが集まり、今年の春に実施した出演者オーディションを経て、総勢40名を超える出演者が決定。協働制作の様子は公式サイトやSNSでも発信しています。

[日程] 11月29日

[会場] 東京文化会館 大ホール

[主催] 東京都、(公財)東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、東京藝術大学

[問い合わせ] 「黙るな 動け 呼吸しろ」公演事務局

Tel. 03-6453-8130 (平日10:00～18:00)

<https://duk-tokyoforward2025.jp/>

れ、間近で動きが見られる貴重な機会となっている。

[日程] 11月8日

[会場] 静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ

●愛知県豊橋市

穂の国とよはし芸術劇場PLAT
〒440-0887 豊橋市西小田原町123

Tel. 0532-39-8810 塩見直子

<https://www.toyohashi-at.jp/>

プラットフォーム・レジデンス事業 新作共同制作 小尻健太<SandD>

『Engawa, The Self in Season』

劇場にアーティストが滞在し、全国の劇場での上演も見据えた新作舞台作品の共同制作を行う「プラットフォーム・レジデンス事業」を2023年よりスタート。第2弾となる今回は、2022～23年に

PLATで滞在制作を行った小尻健太が、国際芸術祭「あいち2022」をきっかけに出会ったドイツの建築家ハネス・マイヤーとの2年間の協働リサーチを経て、縁側に着想を得たダンス作品を制作・上演する。

[日程] 11月29日、30日

[会場] 穂の国とよはし芸術劇場PLAT

近畿

●滋賀県栗東市

栗東芸術文化会館さくら

〒520-3031 栗東市穂2-1-28

Tel. 077-551-1455 石田みち代

<https://www.sakira-ritto.net/>

さくらジュニアオーケストラ
第16回定期演奏会

故・秋山和慶を音楽顧問に迎えて2005年に開校したさくらジュ

ニアオーケストラ・アカデミーを母体に、10年7月に結成されたジュニアオーケストラの定期演奏会。アカデミーでは「感じる心」と「表現する技術」をテーマに本格的な音楽講座を開催している。演奏会では指揮に現田茂夫を迎え、経験豊富な講師陣の指導の下、音楽を通して成長した子どもたちが、瑞々しい響きを披露する。

[日程] 11月16日

[会場] 栗東芸術文化会館さくら



第15回定期演奏会(指揮:秋山和慶)

●大阪府茨木市

茨木市文化・子育て複合施設おにクル

〒567-0888 茨木市駅前3-9-45

Tel. 072-631-0296 堀越芽生子

<https://www.onikuru.jp/>

おにクルで創ろう

「自分自身を上演する」発表会

第一線で活躍するアーティストと茨木市民が協働し、茨木発の舞台芸術作品を創作するプログラムの第2弾。今年は「上演」をテーマに神里雄大(劇作家・演出家)を講師に迎え、公募で集まった10人の参加者が普段感じていることなどを元に台本を書き、自らが出演する形で上演する。併せて公演制作体験プログラムを用意し、広報や創作参加者のケアなどで公演を支える。

[日程] 11月9日

[会場] 茨木市文化・子育て複合施設おにクル

●兵庫県豊岡市

豊岡市民プラザ

〒668-0031 豊岡市大手町4-5

アイティ7F

Tel. 0796-24-3000 野村聡子

<http://www.platz-npo.com/>

市民演劇プロジェクト2025地域と創る演劇 豊岡ここものがたり『但馬国(たじまのくに)ファスト風土記』

豊岡市民プラザでは、2021年よりOMS(扇町ミュージアムスクエア)戯曲賞作家が豊岡を取材して書き下ろした作品を、内藤裕敬(南河内万歳一座・座長)が演出する地域密着型演劇プロジェクトを展開。今年は12人の市民とプロが土橋淳志(A級MissingLink)による新作に挑む。ここに生きる人々が紡ぐ物語を、演劇で伝え、未来へ残していく。

[日程] 11月22日、23日

[会場] 豊岡市民プラザ

●「YPAM—横浜国際舞台芸術ミーティング2025」開催のお知らせ

YPAM(ワイパム)は、同時代の舞台芸術に取り組む国内外のプロフェッショナルが、公演プログラムやミーティングを通じて交流し、舞台芸術の創造・普及・活性化のための情報・インスピレーション・ネットワークを得る場です。

「YPAMディレクション」は今回より、アーティストとプロフェッショナルが舞台芸術の現在を共に考えるためのフォーラムディスカッションとして実施します。「YPAMショーケース」は、観客とプロフェッショナルが共有する国際的な出会いの場としての公演プログラム。国も規模もさまざまな7企画をご紹介します。公募プログラム「YPAMフリンジ」は、52演目がエントリー、国際的かつ多彩な演目が並びます。交流プログラム「YPAMエクステンジ」では、Art Center NEWでのレセプションで開幕、男女共同参画センター横浜南(フォーラム南太田)でさまざまなミーティングを実施します。

横浜からの新しい価値の国際的発信を目指す、YPAMの試みにぜひお立ち合ってください。プログラ

ム詳細や参加登録についてはウェブサイト(<https://ypam.jp>)をご覧ください。

●YPAM—横浜国際舞台芸術ミーティング2025(令和7年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業)

[会期] 2025年11月28日(金)～12月14日(日)

[会場] KAAAT神奈川芸術劇場、男女共同参画センター横浜南(フォーラム南太田)、急な坂スタジオ、Art Center NEW、YPAMフリンジセンター ほか

[主催] 横浜国際舞台芸術ミーティング実行委員会((公財)神奈川芸術文化財団、(公財)横浜市芸術文化振興財団、横浜市にぎわいスポーツ文化局、NPO法人国際舞台芸術交流センター)

[共催] 横浜市にぎわいスポーツ文化局、(独)国際交流基金

[助成] (一財)地域創造

[事業連携] (公社)全国公立文化施設協会(舞台芸術海外コーディネート・育成事業)

[特別協力] 急な坂スタジオ

[協力] NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター、Art Center NEW((一社)Ongoing)、横浜高速鉄道(株)

[後援] 外務省、神奈川県

[提携事業] ヨコハマダンスコレクション2025



左: YPAM2024エクステンジの様子
撮影: 藤田紅於

右: アン・ウンミ「北朝鮮ダンス」(韓国)
©JM Chabot

▼ 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

●奈良県奈良市

奈良県立美術館

〒630-8213 奈良市登大路町10-6

Tel. 0742-23-3968 山本・村上
<https://www.pref.nara.jp/11842.htm>

特別展「奈良ゆかりの現代作家展 安藤榮作 一約束の船」

奈良県在住の彫刻家・安藤榮作による展覧会。原木や廃材などを手斧で叩いて刻み制作する安藤が、吉野の林業など木材の生産が豊富な奈良に拠点を移して約15年間の近作・新作を展示する。公開アトリエでは不定期に作家が公開制作を行い、パフォーマンスやトークも行われる。また併設のギャラリーでは、重要有形民俗文化財の「吉野林業用具と林産加工用具」なども展示される。

[日程] 9月13日～11月16日

[会場] 奈良県立美術館

中国・四国

●鳥取県倉吉市

鳥取県立美術館

〒682-0816 倉吉市駄経寺町2-3-12

Tel. 0858-24-5442 山本恵美子
<https://tottori-moa.jp>

The 花鳥画—日本美術といきものたち—

当時の人々が生物とどのように関わり、向き合っていたかを教えてくれる花鳥画。本展では、江戸時代を中心とした多彩な作品を約120点展示し、日本美術における動植物を主題とするアートの諸相とその魅力を紹介する。令和5年度に収集した伊藤若冲円熟期の墨画の傑作《花鳥魚図押絵貼屏風》も初めて公開される。

[日程] 10月11日～11月24日

[会場] 鳥取県立美術館

●岡山市

(公財)岡山文化芸術創造

〒700-0822 岡山市北区表町3-11-50

Tel. 086-201-8000 折田彩
<https://okayama-pat.jp>

Disco on the planet

ハレノワ発のクロスジャンル公演として今回、初演を迎える公演。多岐にわたる活動が続ける岡山県出身の平井優子と、中四国のダンサーやサーカスアーティストが、コンテンポラリーダンスやサーカス、現代音楽、映像が融合した“宇宙空間”を舞台上につくり上げる。

[日程] 11月8日、9日

[会場] 岡山芸術創造劇場 ハレノワ

●広島県三次市

湯本豪一記念日本妖怪博物館(三次もののけミュージアム)

〒728-0021 三次市三次町1691-4

Tel. 0824-69-0111 吉川奈緒子
<https://miyoshi-mononoke.jp/>

夏と秋の特別企画展

「妖怪を描いた浮世絵師たち」

もののけミュージアムでは初開催となる浮世絵展。歌川国芳や月岡芳年らによる、酒呑童子や九尾の狐、幽霊など、迫力と怪しさに満ちた妖怪たちが躍動する浮世絵の傑作を多数展示し、彼らが彩った江戸の妖怪ブームを紐解く。もののけトークイベントや秋まつり(もののけハロウィン)など、関連企画も充実。

[日程] 後期: 9月4日～11月18日

[会場] 湯本豪一記念日本妖怪博物館

●香川県高松市

高松市美術館

〒760-0027 高松市紺屋町10-4
Tel. 087-823-1711 川西弘一

<https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/museum/takamatsu/>

蒔醬 山下義人展

高松市生まれ、香川県漆芸研

究所等で蒔醬(きんま)をはじめとする漆芸技法を習得、2013年には人間国宝に認定された山下義人の初の回顧展。山下の蒔醬技法は「面彫り」の技を特徴とし、彫りと色埋めを繰り返して、色漆を塗り重ね、緻密なグラデーションをつくり上げる。蒔醬と蒔絵の組み合わせで生み出される山下独自の漆世界の魅力に迫る。

[日程] 10月11日～11月24日

[会場] 高松市美術館

九州・沖縄

●熊本県津奈木町

つなぎ美術館

〒869-5603 葦北郡津奈木町岩城494

Tel. 0966-61-2222 楠本智郎
<https://www.tsunagi-art.jp/>

岡本光博 イメージを突き返す

「岡本光博つなぎプロジェクト」として、2カ年計画で始まった住民参画型アートプロジェクト1年目の成果展。《UFO-unofficial falling object》や《表現の自由の机》シリーズなど、社会問題や著作権問題をユーモアとアイロニーを交えて表現した過去作品のほか、岡本が住民である7人の実行委員と地元ならではのアイデアや情報を交換しながら生み出した2年目に向けたプランを展示する。

[日程] 9月6日～11月24日

[会場] つなぎ美術館

●宮崎県宮崎市ほか

(公財)宮崎県立芸術劇場

〒880-8557 宮崎市船塚3-210
Tel. 0985-28-3208 工藤治彦

<https://miyazaki-ac.jp/>

大地の声×天空の響き～真言宗声明とカウンターテナーによる祈りの音楽

アクロス福岡・サザンクス筑後・メディキット県民文化センターの3館が連携して企画した声楽

コンサート。第一部は九州各地の真言宗僧侶で結成された九州真言宗教師連合法親会による声明、第二部は宮崎出身のカウンターテナー・藤木大地による「アヴェ・マリア」、第三部では東西の祈りの音楽がひとつとなる全く新しい声楽を届ける。

[日程・会場] 11月22日: アクロス福岡 / 11月23日: サザンクス筑後 / 11月24日: メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)

●沖縄県宜野座村

宜野座村文化センターがらまんホール

〒904-1302 宜野座村字宜野座314-1

Tel. 098-983-2613 小越友也

<https://garaman.jp/>

映画「ウムイ」×舞台演舞

人が集い表現する場が失われたコロナ禍に制作され、沖縄の伝統芸能に関わる人々の日常や心情を描いたドキュメンタリー映画『ウムイ』(沖縄の言葉で「思い」)が、世界での上映を経て凱旋。上映に併せて、映画に出演した継承者から技術と思いを受け継ぐ若手継承者による演舞を披露し、「地域固有の伝統芸能をどのように伝承していくか」というテーマと、コロナ禍を乗り越えた芸能の今を届ける。

[日程] 11月23日

[会場] 宜野座村文化センターがらまんホール

クリスマス・新春企画情報求む!

12月号(11月25日発行予定)では「クリスマス・新春企画」を中心にご紹介します。下記までぜひしどしど情報をお寄せください。

Tel. 03-5573-4093

Fax. 03-5573-4060

letter@jafra.or.jp

締め切り: 11月4日(火)

専用ホールのアウトリーチ実施率・実施回数がやや減少

2024年度 「地域の公立文化施設実 態調査」②

専用ホール

*2024年度「地域の公立文化施設実態調査」報告書は、地域創造ホームページにも掲載しています。

●2024年度「地域の公立文化施設実態調査」調査概要

○調査対象

公立文化施設のうち、「専用ホール」、「その他ホール」、「美術館」、「練習場・創作工房（アーティスト・イン・レジデンス施設を含む）」およびそれらを含む「複合施設」と、施設の設置主体にあたる地方公共団体。

○調査時期

2024年9月～11月

○調査方法

全国の地方公共団体の文化行政担当者に、当該団体が設置主体となっている調査対象施設を記入する「施設設置一覧記入票」と「地方公共団体向け調査票」、「施設調査票」を配布。当該団体において「施設設置一覧記入票」と「地方公共団体向け調査票」の記入および「施設調査票」の各施設への配布と取りまとめをいただいた。

○調査回収数

●地方公共団体票の有効回収数
1,756(都道府県47(100%)、政令市20(100%)、市区町村1,687(98.0%)、一部事務組合2)

●地方公共団体からの回答

3,500館 延べ3,692施設
〔専用ホール〕1,535、〔その他ホール〕1,340、〔美術館〕651、〔練習場・創作工房〕166)

●地方公共団体から回答があった3,500館のうち、施設からの施設調査票の有効回収数

3,478館 延べ3,670施設
〔専用ホール〕1,523、〔その他ホール〕1,333、〔美術館〕648、〔練習場・創作工房〕166)

●調査研究に関する問い合わせ

芸術環境部 中嶋・児島

Tel. 03-5573-4066

今回は、舞台芸術を主目的としている「専用ホール」の主な結果を紹介する。調査の対象となった1,535施設(地方公共団体からの回答により把握した施設)のうち、施設から有効回答があったのは1,523施設である。

●回答施設の概況

設置主体別にみると、都道府県97施設(6.4%)、政令市143施設(9.4%)、市区町村1,283施設(84.2%)である。また、管理運営形態別では、指定管理が987施設(64.8%)、直営が529施設(34.7%)、大規模修繕などでの閉館中が7施設(0.5%)となっている。2019年度調査と比較すると、指定管理が62.6%から64.8%へと増加し、その分直営が減っている[表1]。

●施設の運営状況(スタッフ数・専門職員の有無・収入)

2024年9月時点でのスタッフの平均合計人数は11.0人で、内訳は、事業系スタッフ3.6人、施設管理系スタッフ3.6人、舞台技術系スタッフ3.3人、総務系スタッフ2.6人となっている。設置主体別では、施設規模の大きい都道府県(22.4人)、政令市(17.9人)が多く、市区町村(9.4人)との差が顕著である[表2]。常勤の館長がいる比率は85.3%と高いが、芸術監督のいる比率は3.4%、専門のプロデューサーがいる比率は5.3%と低い。ただし、都道府県の施設では芸術監督13.4%、プロデューサー18.6%と顕著に高くなっている[表3]。

2023年度決算金額による施設収入金額は、直営施設で平均52,173千円、指定管理施設で平均200,011千円だった[表4]。2019年度調査(2018年度決算)と比較すると、直営施設で45,089千円から15.7%の増加、指定管理施設で176,073千円から13.6%の増加だった。ただし、支出をみると、直営施設では事業費が平均9,147千円から8,162千円へと減少している一方、運営管理費が39,555千円から45,580千円へと大幅に増加しており、収入の増加が事業の活性化に直結しない状況となっている。一方指定管理施設では、事業費が前

回の66,391千円から74,816千円へと上昇している。

●自主事業の実施

専用ホール施設において2023年度に自主事業を実施した割合は、直営施設で71.5%(設置団体以外の団体への委託事業を含む)、指定管理施設で91.6%(設置団体からの受託事業を含む)となっている。年間の平均実施件数は18.2件、分布では1～5件実施している施設の割合が29.7%と最も多い。ただし、設置団体による違いが大きく、都道府県では年間21件以上実施している比率が48.3%、政令市では36.0%と最も多くなっている[図1]。

実施している事業のジャンルとしては、自主事業・設置団体からの受託事業ともに、「クラシック音楽・オペラ」の実施比率が最も高い。また、より詳細なジャンルでみると、「落語」が40.6%でトップとなっている。市民参加型の事業や普及事業としては「ホール内で実施する体験型事業(ワークショップ等)」35.0%、「市民文化祭、芸術祭」34.7%、「文化芸術関連の講座、講演会」27.0%、「地元アーティストの育成・支援を目的とした事業」25.6%、「無料のロビーコンサート」19.7%、「0歳コンサート」19.3%、「バックステージツアー」18.0%、「市民オペラ、市民ミュージカル、市民劇等の市民参加型の創造事業」17.2%が回答の上位となった。一方、オリジナルの舞台芸術の創造を行う「地域向けにホールが企画したプロデュース公演」は10.9%にとどまる[図2]。

アウトリーチ事業の2023年度の実施率は、全体で42.3%(都道府県68.5%、政令市59.9%、市区町村37.8%)となっている。年間の平均実施回数は、全体で11.8回(都道府県20.8回、政令市8.9回、市区町村11.1回)である。アウトリーチの対象は小学校(65.3%)が中心で、次いで中学校(34.7%)となる。2018年度実績と比較すると、全体の実施率で43.8%からやや減少、回数も13.3回から11.8回へと減少している[表5]。

表1 設置主体別、管理運営形態別/施設内容内訳 (%)

		設置主体別			管理運営形態別		
		都道府県	政令市	市区町村	指定管理	直営	閉館中
2024年度	施設数	97	143	1,283	987	529	7
	(%)	6.4	9.4	84.2	64.8	34.7	0.5
2019年度	施設数	92	131	1,232	911	544	
	(%)	6.3	9.0	84.7	62.6	37.4	

表2 スタッフ数の平均(設置主体別)

	有効回答数	合計人数平均 (括弧内は2019年度調査)	職種			
			事業系	施設管理系	舞台技術系	総務系
全体	1,491	11.0人 (10.2人)	3.6人	3.6人	3.3人	2.6人
都道府県	95	22.4人 (21.0人)	7.2人	5.3人	7.5人	4.5人
政令市	141	17.9人 (16.3人)	5.9人	6.7人	4.5人	2.6人
市区町村	1,255	9.4人 (8.8人)	3.0人	3.1人	2.8人	2.4人

表3 芸術文化領域の専門職員(設置主体別) ※複数回答

	有効回答数	芸術監督	プロデューサー	左記以外	いない	不明
全体	1,523	3.4%	5.3%	7.0%	82.7%	4.4%
都道府県	97	13.4%	18.6%	16.5%	60.8%	3.1%
政令市	143	4.2%	9.1%	12.6%	73.4%	3.5%
市区町村	1,283	2.6%	3.8%	5.7%	85.3%	4.6%

表4 2023年度決算金額

●直営

収入		平均金額	有効回答数
一般財源		45,860千円	460
特定財源	補助金・助成金	2,297千円	178
	施設使用料・入場料収入等(*)	7,450千円	360
	その他	6,240千円	237
収入金額計		52,173千円	493

*「施設使用料・入場料収入等」は、これらを一般財源とせず、特定財源で施設運営費に充当している場合に記入。

●指定管理

収入		平均金額	有効回答数
設置者からの収入	指定管理料	128,679千円	930
	事業補助金(*1)	18,129千円	352
	事業受託費(*2)	5,457千円	346
	その他(*3)	4,770千円	342
自主財源(*4)	利用料金収入(*5)	38,657千円	784
	事業収入	25,831千円	792
	設置者以外からの助成金・協賛金・寄付金	7,102千円	478
	その他	5,968千円	710
収入金額計		200,011千円	941

- *1 指定管理料以外に設置者からの事業補助金がある場合に記入。指定管理者である文化財団本部に対する事業補助金で当該ホールの事業を実施する場合を含む。
- *2 設置者から事業の委託を受け、その費用を指定管理料とは別に事業受託費として受け取っている場合に記入。
- *3 上記以外の費目で、指定管理料とは別に設置者から受け取っている収入がある場合に記入。
- *4 複合施設で他の施設からの収入が充当されている金額を含む。
- *5 利用料金制を取っている場合に記入。

図1 自主事業数の分布(%) (設置主体別)

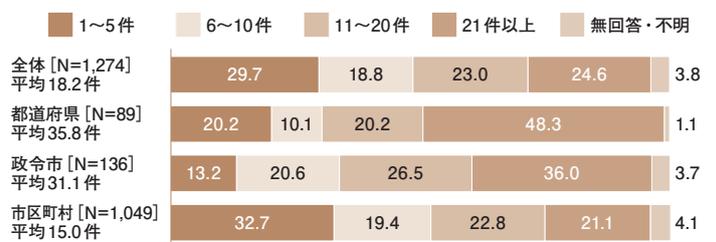


図2 鑑賞系自主事業・受託事業の詳細ジャンル、個別企画内容(%) ※複数回答

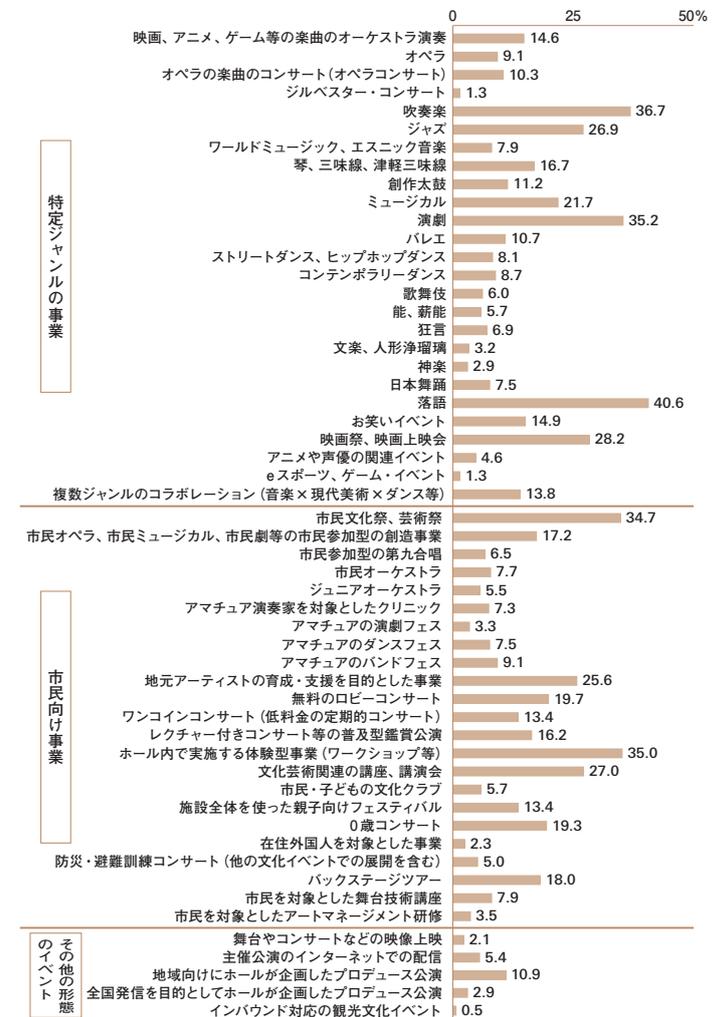


表5 アウトリーチの実施状況(設置主体別)

	実施率と未実施施設の今後の動向(%)					実施回数(回)	
	有効回答数	実施した	実施したいがまだできていない	実施の予定はない	不明	有効回答数	平均
全体	1,287	42.3	11.1	45.2	1.4	517	11.8
都道府県	89	68.5	9.0	21.3	1.1	56	20.8
政令市	137	59.9	6.6	32.1	1.5	78	8.9
市区町村	1,061	37.8	11.9	48.9	1.4	383	11.1
参考:2018年度実績	1,198	43.8	9.6	44.9	1.7	478	13.3

▼—今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

千葉市

千葉国際芸術祭 2025



上：33年後のかえる／下：まちまちいちば
写真提供：千葉国際芸術祭実行委員会

●千葉国際芸術祭2025

千葉市の各地を舞台に2025年より3年に1度開催される国際芸術祭の第1回。「市民参加型アートプロジェクトの祭典」を掲げ、「ちから、ひらく。」をテーマに国内外32組が街中で市民との協働プロジェクトを展開。総合ディレクターはアーツ千代田3331などを手がけてきたアーティストの中村政人が務める。千葉市では2021年の市制100周年記念事業として「千の葉の芸術祭」を開催。これを一過性のイベントで終わらせず、継続的な文化事業として発展させるため、2023年度に千葉市芸術祭基本構想を策定。芸術祭実行委員会を立ち上げ、千葉市美術館館長などによる専門部会にディレクターの選出を諮問。2023年よりプレ会期企画を始動。公募企画「ソーシャルタイプ」の応募者数は海外81の国と地域から597組、国内39組。本開催に向け、藤浩志のかえっこパザール、西尾美也のワークショップなども展開。実行委員会、中村と「3331(コマンドA)」に加え、千葉市在住者などから成る専門人材チーム「地域リーダーズ」が芸術祭運営に大きく関わるなど、地域の知見を生かした組織体制にも特色がある。

【主催】千葉国際芸術祭実行委員会
【会期】2025年9月19日～11月24日(集中展示・発表期間)

「市民参加型アートプロジェクトの祭典」を謳う「千葉国際芸術祭2025」が、千葉市で開催されている。アーティストがつくり、一般客が観る構図を離れ、市民との協働プロセスを前面に押し出した新しいタイプの芸術祭だ。また、市在住のクリエイターなどの専門人材が「地域リーダーズ」として運営を支えている点も特徴的。芸術祭を一過性の催しではなく、日常に根ざした市民の創造性を育む機会とする本展の一端を、9月18日のプレツアーで取材した。

芸術祭は市内中心部6エリアに広がり、生活空間に溶け込むように作品が展開している。総合ディレクターの中村政人が語る「スポーツと同じように、アートも自分で参加することでより楽しさがわかる」という言葉の通り、展示は土地の歴史や作家の造形性を示すというより、市民との関わりの成果発表的な色合いが濃い。

例えば多くの人が行き交う千葉駅のそごう前では、駅職員や海上保安庁など“都市の黒子”に取材して撮影したアレクセイ・クルプニクの写真を屋外展示。築33年のビルのエントランスでは、不要になったおもちゃを子どもたちと交換する「かえっこパザール」で集まった膨大なプラスチックの食玩を使い、藤浩志が環境の未来を考える「33年後のかえる」を展開していた。

千葉都市モノレールでは、使われていないプラットフォームに見る角度によって写真の像が現れる沼田侑香のインスタレーションを展示。これも市民や市長が被写体となっていた。県庁周辺では旧店舗を使った会場が多く、地元出身の岩沢兄弟は元うなぎ屋を街から集めた素材でつくるユニークな物品「キメラ遊物」の工房にした。同拠点の2階は市民が“常識”などについて語らう「ちくわ部」の集会場にもなっていた。

西千葉駅の高架下には地域から集めた廃品で制作した伊東俊光の巨大女神像や、西尾美也の「まちまちいちば」がある。後者は、ワークショップで制作された作品の展示場兼「まちまちテラー」が新たな服を生み出す仕事場だ。近くには、高齢者と外国人が多い幸町団地の住民が力を合わせた加藤翼の巨大作品もある。

こうした作品の実現をはじめ、運営に大きく寄与したのが「地域リーダーズ」だ。多数が千葉市や近郊に住むアートやデザイン、広報のプロで、各々の職能を活かし、企画運営から会場提案、予算進行まで幅広く担う。立ち上げ時は数名で2024年5月から活動を始め、現在は20名を超えた。初期メンバーで芸術祭のジェネラルプロデューサーも務める西山芽衣さん(まちづくり会社勤務)は、「この体制には地域の人材発掘の側面もある。芸術祭の裏方はアートイベントの専門会社などが地域外から来る場合も多いが、今回は地元の専門人材を可視化し、『私たちでもできる』と思えたことに価値がある」と話す。先述の岩沢兄弟の弟たかしさんも初期からのメンバーだ。「実家はうなぎ屋から徒歩圏内。今回は自分の生活圏を越えて連携できた。自治が進むとより暮らしやすくなると感じた」と振り返る。

自身も作家に石膏で型取りされるなど積極的に制作に参加した神谷俊一市長は、「地域の力が停滞するなか、コミュニティ型のアートプロジェクトには日常に新しい価値を与え、自分たちの街の見え方を変える力があると感じた。市民が普段の境界を超えて協力する場面もあり、役所の仕事の仕方も変わった」と評価する。

本芸術祭は中村にとって、長年探究してきた地域に寄与するアートの新たな実践だ。では、今回の最大の実験は？「自分の行動がどのように地域や周囲を変容し、ひいては地球全体に影響するかという環境学的な視点の獲得が大きなテーマ。身近な活動が気候変動や政治的対立など世界の課題にもつながっているという、想像力の広がりを生みたい。外から来たものをただ受け取るのではなく、一歩踏み出して自分の環境を自分でつくってみるという経験が、そうした意識を育むと思う」。

一過性を超えて日常との連続性を大切にす本芸術祭では、会期終了後の12月にも振り返りイベントを開催予定。参加企画中心の内容や市民との体制づくりなど、そのあり方は今後の芸術祭にも問いを投げかけている。

(アトライター・杉原環樹)